ヴィーナスレコードは1992年10月に原哲夫プロデューサーによって設立されたジャズ専門レーベルである。原哲夫氏はそれまでRCAレコードやアルファレコードでプロデューサーとして活躍してきたが、自らのレーベル設立というかねてからの夢を実現させるべく、ジャズ・ミュージシャンの中で一番心酔していたというファラオ・サンダースの新作『愛のクレッセント』を第１弾として制作し、レーベルをスタートさせた。

その後ヴィーナスレコードはエディ・ヒギンズ、スティーブ・キューン、デニー・ザイトリン、リッチー・バイラーク、スタンリー・カウエル、ローランド・ハナ、ハロルド・メイバーン、ビル・チャーラップなど新旧ピアニストたちのトリオ・アルバムや、パルネ・ウィラン、ケニー・ドリュー、エンリコ・ラバ、ジェフ・ケイ、フィル・ウッズ、エンリコ・ラバといったホーン・プレイヤーたちの新作を続々と制作し、アーチストの創造性をうまく引き出したそれらの作品は、発売のたびにファンのの心を捉えてレーベルとしての認知度を高めていった。その一連のピアノ・トリオ・シリーズは今日のピアノ・トリオ・ブームの立役者としての役割を果たしたし、またシェップの『フレンチ・パラッズ』ではジャズ・ディスク大賞〈銀賞〉を獲得するなど、いまやヴィーナスレコードはジャズ界における人気プランドとしての地位を確立するに至っている。

ヴィーナスレコードの作品がこれほどまでに支持されるのは、原プロデューサーが自らが聞きたいと思って制作するジャズが日本のジャズ・ファンの嗜好とマッチしたためであり、双方に共通する心情があるからだろう。一方、ヴィーナスのもうひとつの人気の要因として、ハイパー・マグナム・サウンドとそのアートワークの斬進さが挙げられる。とくに独自の録音方式によるハイパフなサウンドは、ある面で名匠ルディ・ヴァン・ゲルダーのプルーノート・サウンドに通じるものがあるといえよう。

このヴィーナスレコードの100枚を超えるカタログ（2002年8月現在）から、ホーン・プレイヤーにふる極めつけの名盤名演をセレクトしたのがオルバムで、セレクションはスイングジャーナル誌2002年9月号の特別企画「クリティックが選ぶヴィーナス名曲名演 Best10」を反映させたものになっている。参考までにホーン・アルバム編の投票結果の15位までを下記に紹介しよう（『』は収録アルバム、同順位は同点）。

第1位　煙が目にしみる／エディ・ヒギンズ&スコット・ハミルトン『煙が目にしみる』
第2位　危険な関係のブルース／パルネ・ウィラン『ニューヨーク・ロマンス』
第3位　ディア・オールド・ストックホルム／エンリコ・ラバ『ルネッサンス』
第4位　エスターテ／パルネ・ウィラン『パッショーネ』
第5位　詩人の魂／アーチー・シェップ『フレンチ・パラッズ』
第6位　コートにすみれを／アーチー・シェップ『トゥルー・バラード』
第7位　ストールン・モーメンツ／ワン・フォー・オール『情事の終わり』
第8位　メニナ・モサ／リー・コニッツ『ブラジリアン・ラプソディ』
第9位　ナイーマ／ファラオ・サンダース『愛のクレッセント』
第10位　エブリシング・ハプンズ・トゥ・ミー／フィル・ウッズ『チェイシン・ザ・バード』
第11位　アフター・ザ・レイン／マリオン・ブラウン『オファリング』
第11位　ナンシー／ハロルド・メイバーン『キス・オブ・ファイヤー』
第11位　クレッセント／ファラオ・サンダース『愛のクレッセント』
第14位　リタード・ボサノバ／リー・コニッツ『ブラジリアン・セレナーデ』
第15位　情事の終わり／ワン・フォー・オール『情事の終わり』

本ＣＤでは収録時間の許す限りこの投票の上位10曲を収録している。これらのエッセンシャルな名曲名演でヴィーナスレコードのホーン・サウンドに共感した方は、ぜひ各々の収録アルバムそのものを、さらにはそのアーチストの他の名盤へと次のステップを踏み出していただければと思う。

なお、このベスト盤のジャケットはアーチー・シェップの『フレンチ・パラッズ』をもとに制作されているが、これもクリティックによるホーン・アルバム・ジャケット人気投票の結果（参考意見としてアンケート、誌上では未発表）を反映させている。

また、本アルバムの姉妹編として同様の趣旨で制作された「ピアノ・トリオ編（TKCV-35309）」も発売されているので、併せてお聞きいただければ幸いである。

スイングジャーナル編集長　淡谷孝次

Very Best ベリー・ベスト
Venus Records Horn Album Best Performances
ヴィーナスレコード・ホーン・アルバム・ベスト・パフォーマンス

1.『煙が目にしみる』 エディ・ヒギンズ＆スコット・ハミルトン
Smoke Gets In Your Eyes《 J. Kern 》(7 : 26)

2.『危険な関係のブルース』 パルネ・ウィラン・カルテット
No Problem《 D. Jordan 》(9 : 22)

3.『ディア・オールド・ストックホルム』 エンリコ・ラバ・カルテット
Dear Old Stockholm《 Trad 》(5 : 46)

4.『エスターテ』 パルネ・ウィラン・クインテット
Estate《 B. Martino 》(5 : 11)

5.『詩人の魂』 アーチー・シェップ・カルテット
L' Ame Des Poetes《 Ch. Trenet 》(7 : 54)

6.『コートにすみれを』 アーチー・シェップ・カルテット
Violets For Your Furs《 M. Dennis 》(9 : 48)

7.『ストールン・モーメンツ』 ワン・フォー・オール
Stolen Moments《 O. Nelson 》(7 : 05)

8.『メニナ・モサ』 リー・コニッツ
Menina Moca《 L. Antonio 》(6 : 10)

9.『ナイーマ』 ファラオ・サンダース・カルテット
Naima《 J. Coltrane 》(6 : 46)

10.『エブリシング・ハプンズ・トゥ・ミー』 フィル・ウッズ・クインテット
Everything Happens To Me《 M. Dennis 》(6 : 44)

*

Produced by Tetsuo Hara.
Front Cover : ©Cornell Capa / Magnum Photos Tokyo / Amana Images.
Designed by Taz

SMOKE GETS IN YOUR EYES / EDDIE HIGGINS & SCOT'T HAMILTON

煙が目にしみる ／ エディ・ヒギンズ～スコット・ハミルトン

ヴィーナスレコードの看板アーティスト、エディ・ヒギンズがテナー・サックスの名手スコット・ハミルトンを迎えて、カルテット編成で録音した。1954年生まれのスコットは、スイング・ジャズのスタイルを継承する第一人者。キャリアを増すにつれて、演奏に大人の渋い魅力が深まってきた。ジェローム・カーン作曲のこの失恋歌は、ジャズ録音の多い人気スタンダード・ソング。R&Bポーカル・グループ、ブラターズのヒットさせたバージョンも有名だ。

NO PLOBLEM / BARNEY WILEN

危険な関係のブルース ／ パルネ・ウィラン

ジャズ・ピアニストのデューク・ジョーダンが作曲した人気曲で、フランス映画『危険な関係』の主題曲として作られた。フランスの巨人パルネ・ウィランは、父親がアメリカ人ということもあり、アメリカのジャズと関わりが深かった。パルネは、久しぶりにニューヨークを訪れて録音した『ニューヨーク・ロマンス』にこの曲を収録した。パルネのメロディックなアドリブに触発されて、共演者も熱演を聞かせている。

DEAR OLD STOCKHOLM / ENRICO RAVA

ディア・オールド・ストックホルム／エンリコ・ラバ

エンリコ・ラバは、イタリア・ジャズ界の重鎮。アバンギャルドと伝統的なジャズの双方向性を持っている。ラバはマイルス・デイビスを信奉している。この曲はマイルス・デイビスが決定的な名演を残したスウェーデンのトラディショナル・ソング。

マイルスの前にスタン・ゲッツが、スウェーデン公演時にこの曲と出会ってアメリカに紹介した。ラバは通常スローで演奏されることの多いこの曲をアップ・テンポで魅力的に演じている。

ESTATE / BARNEY WILEN

エスターテ ／ パルネ・ウィラン

パルネ・ウィランは、フランスのモダン・ジャズ史に貢献を果たしたテナー・サックス奏者。メロディアスなフレージングにおいて、天才的な才能を発揮した。これはパルネの最後の作品になった『パッショーネ』収録曲。イタリアの作曲家ブルーノ・マルティノの代表曲だ。パルネはイタリアのトランペット奏者エンリコ・ラバをフィーチャーして、ソプラノ・サックスを演奏している。

L' AME DES POETES / ARCHIE SHEPP

詩人の魂 ／ アーチー・シェップ

アーチー・チェップは、1960年代にフリー・ジャズの旗士として功績を残した。フリー・ジャズ系のアーティストは、バラードも得意な人が少なくない。シェップはその代表的な存在で、とりわけヴィーナス・レーベルにおけるシェップは、バラード演奏に真価を発揮している。この曲はシャンソン歌手で作曲家のシャルル・トレネの代表曲。リアルな発法で原曲を自己の音楽に変えるシェップの名演が聞ける。

VIOLETS FOR YOUR FURS / ARCHIE SHEPP

コートにすみれを ／ アーチー・シェップ

アーチー・シェップのバラード・アルバム『トゥルー・バラード』に収録された名演。ジャズ・ピアニスト／シンガー、作曲家のマット・デニスが作曲したスタンダード・ソングで、シェップが敬愛してやまないジョン・コルトレーンが人気バージョンを残している。ヴィーナスにおけるシェップは、“バラードの巨匠”という印象で、他にもバラード作品『ブルー・バラード』『トゥルー・ブルー』『フレンチ・パラッズ』を録音している。

STOLEN MOMENTS / ONE FOR ALL

ストールン・モーメンツ／ ワン・フォー・オール

ワン・フォー・オールは、エリック・アレキサンダー(サックス)、ジム・ロトンディ(トランペット)、スティーブ・ディビス(トロンボーン)、デビッド・ヘイゼルタイン(ピアノ)らによる若手6人編成によるグループ。リーダーはなしで、各メンバーが対等の立場でグループ表現を行なっている。この曲はジャズ・サックス奏者／作編曲家のオリバー・ネルソンが残したジャズ・スタンダード。ハーモニーの美しい曲だ。

MENINA MOCA / LEE KONITZ

若い娘 ／ リー・コニッツ

アルト・サックスの巨匠リー・コニッツは、ブラジル出身のミュージシャンを含むスペシャル・バンドで、ボサノバを中心にとりあげた作品をアーチストに2枚残している。これは『ブラジリアン・ラプソディ』に収録されたバイス・アントニオ作曲の名曲。哀愁を含んだメロディーが胸に響く曲だ。コニッツは流れるようになめらかなアドリブを展開している。

NAIMA / PHAROAH SANDERS

ナイーマ ／ ファラオ・サンダース

テナー・サックス奏者のファラオ・サンダースは、晩年のジョン・コルトレーン・グループに在籍。コルトレーン・ミュージックを継承しながら、独自の音楽性を追求してきた。これはファラオがジョン・コルトレーンへ捧げた作品『愛のクレッセント』に収録されたナンバー。コルトレーンが愛妻ナイーマへ捧げたバラード型だ。ファラオは澄み切ったサウンドで、スピリチュアルな演奏を聞かせている。

EVERYTHING HAPPENS TO ME / PHIL WOODS

エブリシング・ハプンズ・トゥ・ミー ／ フィル・ウッズ

ウッズは、ジャズの歴史に名を残すベテランのアーティストが数多く録音している。アルト・サックス奏者フィル・ウッズも充実した作品を残している。これは第3弾『チェイシン・ザ・バード』に収録されたバラード。ジャズ・ピアニスト／シンガー、作曲家のマット・デニスの代表曲だ。フィル・ウッズはスロー・テンポの中で、自由自在のビバップ演奏を聞かせている。

(高井信成)